

平成 21年 1月

山口耕介 学位論文審査要旨

主 査 村 脇 義 和
副主査 池 口 正 英
同 清 水 英 治

主論文

大腸癌細胞株に対するセツキシマブを介した抗体依存性細胞傷害活性（ADCC）の検討

（著者：山口耕介、堅野国幸、橋本潔、千酌浩樹、倉井淳、澄川崇、木下直樹、米田一彦、
中本成紀、龍河敏行、重岡靖、陶山久司、井岸正、鰐岡直人、池口正英、
清水英治）

平成20年 Biotherapy 22巻 423頁～430頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は大腸癌細胞株に対するセツキシマブのADCC活性を検討したものである。その結果、セツキシマブのADCC活性が非常に低い抗体濃度で最大活性を示し、標的大腸癌細胞株のEGFR発現量と対数相関し、さらに末梢血単核球のIL-2処理により増強することが判明した。本論文の内容は、大腸癌に対するセツキシマブのADCC活性の重要性を初めて示したものであり、臨床腫瘍学の分野において明らかに学術水準を高めたものと認める。